

角間溪谷の 樹木

ハウチワカエデ

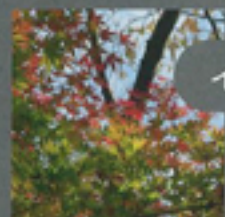
10-11月に紅葉する。低山帯から亜高山帯下部の山地の谷間などに生育する。樹高は5mから15mに達する。



イロハモミジ

秋(10-12月)には黄褐色から紅色に紅葉して散る。和名は、この

裂片を「いろはにほへど……」と数えたことに由来する。



コメツガ

和名は「葉が小さいツガ」の意味。高さは20mから、大きいものでは30mにも達する場合がある。



オニグルミ

花期は5-8月ごろ。種子は食用になるが、殻が厚めで非常に堅いので、種子を肉質に取り出すのは容易ではない。



ブナ

高さ30 mほどに達する常緑高木。秋には黄葉し、その落葉集まる。



角間溪谷自然遊歩道



角間溪谷の 草花

ウツギ

花期は5-7月。枝先に円錐花序をつけ、多くの白い花を咲かせる。茎が中空のため空木(うつぎ)と呼ばれる。



ツルアジサイ

花期は6月-7月で、小さなややクリーム色の両性花が集まる花序のまわりに、白色の、4枚の花弁状の萼(がく)片を持つ装飾花がほども。



サンショウ

花は、4月-5月頃開花し、直径5mmほどで黄緑色。果実は食用、薬用に用いられ、花や果実も食することができる。



コオニユリ

花季は7月-8月で、花弁はオレンジ色、濃緑色で筒状の花を咲かせる。花言葉は「雄略」「愉快」「華麗」など。



キツネノボタン

5-7月ごろ分岐した茎の先に黄色い5弁の花が咲く。川や水田の近くなど湿気の多い土地に生える。



マムシグサ

葉は紫褐色のまだらな模様がある。この模様がマムシに似ていると考えられたところからこの名がつけられた。



タケニグサ

花は夏に咲き、花弁がなく、萼(がく)は2枚、円錐花序をつくる。果実は長さ2cmほどで扁平。茎を切ると黄色の乳液が出る。



シシウド

8-11月に、散形に密集した白い花を付ける。古くから薬用、食用のハーブとして用いられている。



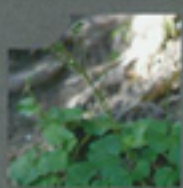
オオウバユリ

花期は7-8月であり、茎の上段に横向きの花をつける。花が満開になると葉が枯れてくる事が多いため、幽(葉)のない「死」にたとえて名づけられた。



ノブキ

花期は8-10月。山腰や谷間に生える。登山路、山道沿いによく見かけるが、これは登山や山歩きの人間に付着して種子が散布された結果と思われる。



フサザクラ

3-4月頃、葉が出る前に開花し、紅色の雄しべのやうが房状に垂れ下がって美しい。雄しべはゴルフのクラブ状でほしべより短い。



角間溪谷の 野鳥



オオルリ

深流沿いのよく茂った森林に多く生息し、飛翔している昆虫を捕食する。雄の背中は尾も含め光沢のある青で、尾の基部には左右に白斑がある。



コムドリ

平地から山地の明るく開けた林に生息する。雄は頭部から喉にかけてが淡いクリーム色で、頬から耳羽後方にかけて目立つ茶色の斑がある。



キセキレイ

夏季は深流沿いなどに好んで棲み、積雪地に棲む個体は冬になると暖地へ移動する。顔から鼻、背にかけてが灰色。土脚が白色、下腹部が黄色である。



ヒヨドリ

里山や公園などある程度木のある環境に多く生息し、都市部でも見られる。顔から胸は灰色の羽毛に覆われるが、頬に褐色の部分があり、よく目立つ。



ミソサザイ

茂った薄暗い森林の中に生息し、特に深流の近辺に多い。全身は茶褐色で、体の上部と翼に黒褐色の横帯が、体の下部には黒色と白色の斑状模様がある。

角間溪谷の
動物



ニホンカモシカ

シカの名が入っているが、シカの属するシカ科ではなく、ウシやヤギと同じウシ科に属する。語源には、谷間などを走っている様を上から見下ろすと、カモシカの背中の毛色が揺れ動き鳥などが飛んでいるようにも見たから、という説もある。



アオサギ

夏季に北海道で繁殖し(夏鳥)、冬季に九州以南に越冬のため飛来する冬鳥。水辺で待ち伏せたり、水辺や浅瀬を徘徊しながら獲物を獲す。

イヌワシ



和名のイヌは「劣っている、下級の」の意で、クマタカなどに比べ本種の尾羽が矢羽としての価値が低かった事に由来する。開けた森林や草原などに生息する。食性は動物食で、哺乳類、鳥類、爬虫類、動物の死骸などを食べる。



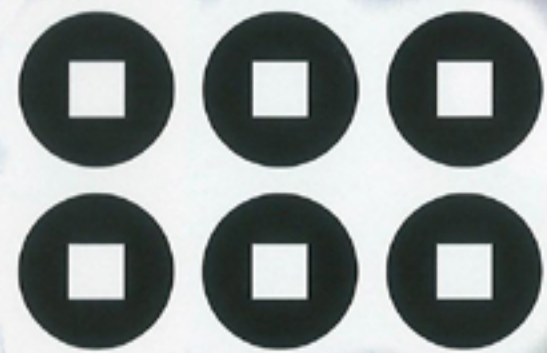
ホンドギツネ

北海道に生息するキタキツネよりやや小さく、四肢の足首の部分の黒くなっていない点で異なる。肉食の傾向の強い雑食性であり、主にネズミ類、鳥類、昆虫類などを捕食するが果物など植物質のものも食べる。

ホンドタヌキ



活動時間帯は主に夜間である。エゾタヌキは冬眠りするがホンドタヌキは冬眠りはせず、真冬でも活動する。ホンドタヌキは死(埋没入り)をする。



角間溪谷

角間溪谷の
魚



イワナ

産卵期は10月-1月頃で産卵床は本流に流入する支流が多い。2年魚以降で18cm-22cmを超えるとオス・メス共に性的に成熟し、数年にわたって繁殖行動を行なう。日本のイワナ類は、暖かい海には下らずに、冷水の流れる河川の源流付近に一生とどまる河川残留型の生活史をもつ場合が多い。

ヤマメ



2年魚でも全長は20cm程にしかならないが、ダム湖などに下り再び遡上してくるものは40cmに達するものもある。秋期に河川上流域のおもに本流の砂礫質の河川に産卵床を形成し1腹200粒ほどの産卵をする。

サツキマス



ヤマメとの外見上の大きな違いは、側線の上下から背部にかけて朱点が散在することである。体長は35-50 cm程度で、サクラマスよりは小型。産卵は9月から11月で、12月から翌年の1月頃に孵化する。

ネイチャー ウォーキング ガイド

